

## 5 - 1 1 温室効果ガス等

### (1) 予測及び評価

施設の稼働時には、二酸化炭素が排出されるため、二酸化炭素の排出量の予測を行った。  
予測手順は、図5 - 6 4 に示すとおりである。

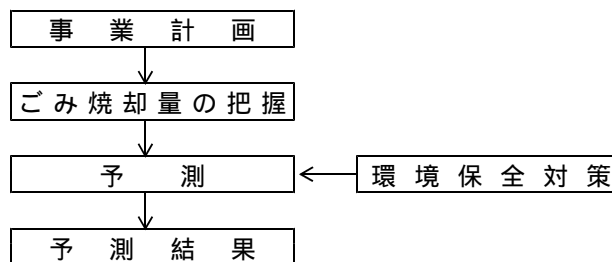


図5 - 6 4 二酸化炭素排出量の予測手順

#### 1) 環境保全対策

二酸化炭素について、以下の環境保全対策を講じることとする。

##### 廃棄物発電

廃棄物発電は、国においても地球温暖化防止のため重点導入を図るべき新エネルギーとして位置づけられている(「新エネルギー導入大綱(総合エネルギー対策推進閣僚会議 平成6年) )。

新工場においても現工場と比較して、さらに高効率ごみ発電を導入し、電力を新工場や環境センターで自家消費する。

##### 省エネルギー

- ・施設内のポンプや送風機等の省エネ運転・管理の徹底等により、電気使用量・各種燃料使用量の一層の削減を行う。
- ・ごみ焼却により発生する蒸気を、発電の他、場内の給湯、暖房等に有効利用する。
- ・ごみ収集車両についてエコドライブ(省エネ運転)の徹底等を行い、燃料使用量を削減する。
- ・低公害のごみ収集車両導入に努める。

#### 2) 予測

##### 予測項目

予測項目は、二酸化炭素の排出量とした。

##### 予測時期

予測時期は、ごみ焼却施設の稼働が定常状態となる時期とした。

##### 予測地域

予測地域は、対象事業実施区域とした。

##### 予測方法

本施設は焼却施設であるので、ごみが焼却されることにより発生する二酸化炭素の排出量を温室効果ガスとして算出し、これに焼却以外でプラントから発生する二酸化炭素排出量を加え、さらに、新工場の発電による電力会社から排出される二酸化炭素の削減量を差し引くことにより、新工場からの負荷量を算出した。

##### 予測結果

新工場における廃棄物の焼却による二酸化炭素排出量、プラント由来の二酸化炭素排出量及び廃棄物発電による電力会社などから排出される二酸化炭素の削減量は、表5 - 136に示すとおりである。

表5 - 136 新工場の稼働に伴う二酸化炭素の排出量及び削減量

項目	二酸化炭素量(t/年)
ごみ焼却に伴う排出量	205,333
プラント由来の排出量	33,350
発電による削減量	- 43,080
計	195,603

注) ごみ焼却に伴う発生量 = ごみ焼却量(200,000t/年) × ごみ中の炭素の割合(28%) × 44/12

### 3) 評価

#### 環境影響の回避・低減に関する評価

廃棄物発電及び省エネルギー対策の実施により、電力会社などから排出される二酸化炭素の抑制が図られるため、本事業の実施による二酸化炭素の環境影響は低減される。